



友愛の森(二中だより)



学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和6年5月1日発行

「物事を多面的に見て、想像力と創造力を高めましょう！」 4月全校朝礼より

校長 望月 俊伸

今年度からグランドデザインにある学校教育目標「二中文化を創造する生徒」の上に、「自分(たち)の幸せ、社会の幸せ」と記しました。これは、二中文化を創造する生徒を育成するその先に、中学時代に限らず、将来社会に出てから活躍できる人、そして、幸せな人生を送ることができる人を目指したいと考えたからです。この「幸せ」という言葉は、最近よく耳にする『ウェルビーイング』という言葉に置き換えることができます。瞬間的な幸せを表すのが「ハピネス(Happiness)」、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸せを意味するのが「ウェルビーイング(Well-being)」です。また、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含まれるそうです。ちょっと難しい概念ですよ。

以前、こんな経験をしたことがあります。ある雨の日に「今日はあいにくの雨ですね…。」とあいさつを交わしたところ、「うちは農家ですが、あいにくの雨なんてとんでもない。恵みの雨ですよ。」と、注意されてしまいました。また、長年富士山を撮り続けているカメラマンの方と次のような会話をしたことを思い出します。私「あの電柱、邪魔ですよ。あれさえなければ、もっと富士山をきれいに撮影できるのに。」カメラマン「あの電柱があるからいいですよ。もうしばらくすると、あの電信柱は地中に埋められてしまいます。今しかこの風景をカメラに収めることはできないのです。」

これらの経験を通じて感じたことは、物事は一方向からでしか見るのではなく、多面的な見方をすることが大切だということです。また、自分の幸せと他者の幸せは違うということにも気付きました。お互いの幸せを尊重し合うことで、「自分たちの幸せ」を実現することができるのだと思います。人それぞれの価値観や多様性を受け入れることが、「社会の幸せ」を実現するための第一歩なのでしょう。

そのためにできることはいくつもあると思いますが、私は皆さんには『想像力を働かせてほしい』と思っています。一流の彫刻家は見えないものが見えていないと良い作品を作ることはできないという話を聞いたことがあります。具体的には、粘土で顔を作るとき、見えている部分だけを見て作っても良い作品にはならず、常に頭部全体をイメージして顔の部分を作る必要があるということでした。

「想像力」は、中学生の今だけでなく、将来社会に出てからも求められる大切な力です。社会や生活の中で様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりすることにつながる重要な力だと考えます。

右の文章は『AC ジャパン』が2015年に制作した全国キャンペーンの広告です。空想や夢を見るときに使う想像力も、人の悲しみや痛みを想像する力も、本当は同じものなのでは？という考えから生まれた企画です。『想像力で、ゆめも、やさしさも、ひろがるね。』というフレーズが私のお気に入りです。

「自分(たち)の幸せ、社会の幸せ」「ウェルビーイング」に近づくために、今年度は、二中文化を「そうぞう」(創造)するとともに、もう1つの「そうぞう」(想像)も大事にして生活を送ってみてください。

どんな気持ちかな？

空が飛べたら 雨ひなったら

魚ひなったら 月ひなったら ウサギひなったら

今クワされたら… どんな気持ちかな

一人ぼっちで、どんな気持ちかな。

想像してみよう 色々な気持ち

想像力で、ゆめも、やさしさも、ひろがるね。

生徒会入会式（4月10日）先輩たちの後輩への想いがこもった学校紹介でした！



授業参観（1・3年）行事説明会（3年）（4月19日）道徳の授業を参観していただきました



学級委員辞令交付式（4月23日）学級委員のみなさんよろしくお願ひします！

令和6年度前期学級委員のみなさん

1年生: 橋本心結さん 廣岡恒祁さん 太田 慶さん 塩川智己さん 小林皇太さん 鈴木麻緒さん
2年生: 辻美沙紀さん 望月遥翔さん 大倉宗士さん 塚田芹椰さん 芹澤夢香さん 幡野寛人さん
3年生: 鈴木咲良さん 田村 翔さん 佐野友彩さん 高井健汰さん 立石美咲さん 原田礼暉さん
望月碧斗さん 土屋 葵さん



富士学ガイダンス 討論会（4月23日）コラボレーション力を育てていきます！



これまで、自分たちが行ってきた活動を、1年生に分かりやすく伝えることができました。また、討論会では、「富士宮市は、ウェルビーイングが高いまちなのだろうか」をテーマとして、自分たちが住むまちのありかたについて、真剣な議論が交わされました。

担任の先生による読み聞かせを行いました。（4月23日）

